

令和5年度 江戸川区立本一色小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	☐ 考える子 ☐ やさしい子 ☐ たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○基礎・基本の定着を確実にし、確かな学力を身に付けられる学校。教師一人一人がやりがいを感じ、情熱をもって教育活動を実践できる学校。家庭・地域と協力し、心豊かな児童が育つ学校。学校や地域の歴史・環境を大切にし、故郷として誇りがもてる学校。 ○自他ともに大切にすること・徳・体のバランスの取れた児童 ○児童を深く理解する。分かる喜び、できる喜びを味あえる授業を創造する。子供たちが安心して生活できる空間をつくることができる。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞○友だちの話を最後まで聞く児童が増えた。他者意識の姿勢が見られるようになった。 ○授業で考える場面を工夫することにより、思考力・表現力を伸ばした児童が増えた。 ＜課題＞○自分の考えを適切な言葉で話したり、相手の話を丁寧に聞いたりする姿勢をさらに身につけさせること。		

教育委員会 重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた 改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に對しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	○放課後補習教室の実施 ○一人一台端末を活用した授業改善 ○担任による放課後補習の実施 ○「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」の実施	○全国学力・学習状況調査で都の正答率を上回る。 ○各学年1回ずつ授業提案を行い、分かる授業づくりを目指していく。 ○計算能力の確実な習得を図り、東京ベーシックドリルの「数と計算」領域で得点率90％以上を目指す。	A	B	全国学力・学習状況調査国語で都の平均正答率を下回った。 東京ベーシックドリルの「数と計算」領域の得点率は90％を下回った。今後も計算能力の定着を図る。	A	学力に個人差があるので大変だと頑張っていると思う。読解力を付けるためには、本を読む習慣を付けることが大切である。	基礎基本の定着と学力向上の取組み
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	○各学級が週1回以上、図書室を利用 ○探究的な学習に学期に1回は学校図書館を活用 ○図書館を使った調べ学習コンクールに向けての取組み	○本をたくさん読んだの肯定的自己評価85％ ○ボランティアの保護者や図書館支援員を活用し、季節に合った飾りや掲示物の交換を月に1回行う。 また、学期に1回以上おすめ本のコーナーの入れ替えを行う。 ○図書館を使った調べ学習コンクールの応募率は3年生以上は100％、1、2年生は50％を目指す。	A	B	本をたくさん読んだの肯定的自己評価は85％を超えた。 図書館を使った調べ学習コンクールへの応募率は3年生以上はほぼ100％であった。1、2年生は50％に届かなかった。	A	今後も工夫を凝らした取組みを工夫してほしい。	図書を使った調べる学習の充実
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実 ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	○運動タイムの年間を通しての実施 ○体育の授業の改善	○体力合計点で昨年を上回る。 ○東京都小学校体育研究部会の実践例を参考にしながら、児童が楽しく取り組める授業づくりを進める。	A	B	体力合計点は、1年生と、3、6年男子、2、5年女子で昨年度を上回った。 児童にめあてをもたせ週1回運動タイムに取組み、楽しく体を動かすことができている。継続して取り組んでいく。	A	運動の機会が増えてきていることはいいことと思う。	体力向上のための自己のめあてを意識した取組み
共生社会の実現 に向けた教育の 推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	○特支研修会年3回の実施 ○校内支援委員会の充実 ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の研究 ○個別支援計画・個別指導計画の作成	○hyperQ-U満足度群出現率の増加 ○配慮が必要な児童の受け皿としてエンカレッジルーム年間を通して活用していく。 ○担任と巡回指導教員の情報共有の場を指導後必ず行えるようにし、在籍学級での支援の仕方について充実を図る。	A	A	特支研修会等の充実により、支援に必要な児童について全体で共通理解ができおり、支援に活かすことができている。引き続き、児童のよさや頑張りを認める授業や指導を行う。	A	本一色小は、鹿本学園等にも近く学校間の連携にとっても恵まれた環境にあると思う。今後も、交流等を続けてほしい。	特別支援研修会の充実
子どもたちの健 全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用 ・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実	○ふれあい月間の取組み強化 ○生活指導全体を年3回・生活指導夕方の毎週実施	○hyperQ-U満足度の要支援出現率の減少。 ○不登校・いじめ認知件数の減少。 ○児童の意識アンケートで学校が楽しいと答える児童が90％以上になるようにする。 ○児童一人一人をよく観察し、普段と違うちょっとした変化も見逃さない。観察眼をすべての教員が身に付けられるようにする。	A	B	児童の様子を担当だけでなく、SC、介助員等多くの目で見守るようにし、気になることは生活指導夕方で共有し、指導に活かしている。 学校が楽しいと思える魅力ある学校づくりに、引き続き取り組む。 児童一人一人をよく観察する観察眼をすべての教員が身に付けられるよう着眼点を意識させる。	A	多くの方の見守りにより、安全に登校し、連携が指導に活かされていると思う。	早期発見と迅速な対応
地域に広く開か れた学校（園）の 実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	○ホームページや学校だよりを活用しての教育活動の積極的な発信	○ホームページの更新をこまめに行い、タイムリーな話題が家庭にも伝わるようにする。 ○年間4回の学校公開日を設定する。1学期には平日を含めた3日間の学校公開を設定する。	A	A	ホームページはこまめに更新した。 学校公開等では、学校の様子を発信し、保護者や地域との連携の充実を図っている。	A	ホームページや学校公開で子供たちの様子を知ることができた。今後も続けてほしい。	迅速な情報発信と連携の強化
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	○授業観察を含めた年3回の学校評議員会の充実	○学校評議員会アンケートの回収率の増加。 ○学力調査結果、体力調査結果、児童・保護者アンケートの結果など、学校経営についての評価に必要な資料を確実に提示する。 ○学校での児童の様子を知ってもらうために、評議員会では授業参観を必ず取り入れるようにする。	A	A	学校関係者評価を指導方法の工夫改善に生かした。 保護者アンケートの結果は、今後公開する。	A	授業中の活気が大事だと思うが、授業の工夫がなされていると思う。	学校評議員会との連携強化
特色ある教育の 展開	・人権意識の向上 ・異学年交流による思いやりの心の醸成	○あすなろ班活動の実施	○いじめアンケート、問題行動調査の結果改善を目指す。	A	A	あすなろ班は、活動方法を工夫しながら取り組んでいる。	A	あすなろ班は伝統ある活動で、思いやりの心が育っている。	あすなろ班活動の継続と充実
	・国語科における授業力の向上	○教員全員での授業研究	○国語科が好きという児童の増加。	A	A	研究授業は年6回実施。現在3回まで終了している。		お忙しい中よく取組まれていると思う。	今年度の成果と課題をまとめ、次年度につなげる。